

第 58 回中国・四国中学校長研究会広島大会 分科会提案者の学校規模・提案骨子等【No.1】

分科会	提案テーマ	学校規模 (R6.5.1現在)			提案者の校区や学校の特徴及び提案の骨子
	提案者	生徒数	学級数(特別支援学級:内数)	教職員数	
1	A 「カリキュラム・マネジメント」の推進－SDGs を取り入れた教育活動の見直し－	288	13 (4)	26	<p>本校が所在する阿波市は、徳島県中央北部に位置し、北に阿讃山脈、南に吉野川を望む、自然豊かな環境に恵まれた、人口約 38,000 人の町である。水と緑に恵まれた自然豊かな町で、日照時間の多い地理的条件を活かした農業が盛んに行われ、県下有数の農業立市の町として発展を遂げている。市内には 10校の小学校と 4校の中学校があり、地域の方々の学校に対する期待も大きい。</p> <p>持続可能な社会の創り手となる資質・能力を育成する教育を行うために、カリキュラム・マネジメントの重要度は、ますます高まってきている。そこで、現在の教育活動に SDGs の達成に資する活動としての視点を加えて見直し、それを活性化するためのカリキュラムを作成することとした。さらに、SDGs を学習活動に取り入れるにあたり、「なぜ学校で SDGs を取り入れた学びをつくるのか」ということについて教職員全員で共通理解を行った。学校教育活動に SDGs を取り入れることで、生徒たちは持続可能な社会の担い手として、社会問題について考え、自ら行動する力を身につけることができる。また、SDGs を取り入れた教育活動は、生徒の社会的な視野を広げ、自分たちが住む地域や世界について考えることができるようになり、生徒たちの心が豊かになることが期待される。本校の取組について、その成果と課題について提案する。</p>
	徳島県 阿波市立阿波中学校 校長 岩野 伸哉				
1	B 「主体的・対話的で深い学び」の実現－学校教育目標を意識した授業改善の試み－	417	14 (2)	38	<p>本校は、岡山市の中心部からやや北部に位置する学校で、校区は南北 12kmと細長く、南端の中学校周辺は文教、住宅地域である。一方、北部は丘陵に挟まれた旭川沿いの自然豊かな地域で、近年過疎化が進んでいる。生徒は総じて素直で、授業・行事等に真摯に取り組むことができるが、授業では受け身になりがちで、自己表現が苦手な傾向にある。また、コロナ禍で教員の授業研究ができにくく、若手教員の授業力を付けていくことも課題となっていた。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、課題解決を図る取組を行った。</p> <p>まず、学校教育目標と授業とのつながりについて職員間で共有した。そして、授業研究文化の醸成を目指し、校内研修の枠組みを変えていくとともに、課題である若手教員の OJT 研修に注力した。また、生徒への直接的な働きかけとして、「主体的・対話的で深い学び」の基盤となる自己表現力を伸ばす学びの場づくりに取り組んだ。</p> <p>校長として、新しい取組はできるだけせず、学校組織・教育課程を見直しすることや、教育委員会の施策への丁寧な取組を通して、教員の負担感を軽減し、充実感を得られるよう心掛けた。また、複数年を見通して持続可能な取組になるよう留意した。これまでの取組及び成果と課題を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現について提案する。</p>
	岡山県 岡山市立岡北中学校 校長 森安 史彦				
2	A よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実－道徳的諸価値の理解を重点にした授業改善を通して－	292	10 (2)	24	<p>新居浜市は四国の瀬戸内海に面した愛媛県の工業都市で、その基盤は別子銅山により作られた。小学校15校、中学校10校、小中併設校1校、分校1校からなる人口12万人の中規模の都市である。1小学校1中学校の校区が5中学で、あとの5中学校は複数の小学校から、生徒が入学してくる。</p> <p>「特別の教科 道徳」については平成 31 年度から実施となり、「考える道徳」、「議論する道徳」を前面に打ち出した。本市では、この流れを受け、「考え、議論する道徳」や「体験的な学習」などのキーワードを基に、指導方法の研修に取り組んでいる教員が多い。しかし、指導形態に偏って目が注がれており、道徳科の目標にある学習過程における価値理解を基にすることに対する重要性が浸透していない。新居浜市中学校校長会では、学習過程で「道徳的諸価値の理解を基に」することを重点的に意識した授業を行えば、生徒を深い学びに導くことができ、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うに至ると考えた。そこで、市内の中学校教員が足並みをそろえて「道徳的価値の理解を基にする」ことについての研修を行い、授業実践をすることで、教員の指導力の向上と生徒の道徳性の育成を目指した。</p>
	愛媛県 新居浜市立泉川中学校 校長 久保 善嗣				
2	B 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実	64	6 (3)	20	<p>本校のある飯南町は、島根県と広島県との県境に位置し、自然が豊かで面積の約9割が森林という中山間地域である。全校生徒65名と小規模校であり、自然に囲まれながら伸び伸びと過ごし、地域の活動にも積極的に参加する生徒が多い。飯南町には小学校が4校、中学校が本校を含めて2校あり、授業や行事など、様々な場面で連携を進めている。さらに保育所4所、高等学校1校を含めて、「ふるさと飯南町を誇りに思い、社会で役立つ学力を身につけ、前に一歩踏み出す力、協働する力を育成する」という目標を掲げた保小中高一貫教育を進めている。</p> <p>研究題である「健康で安全な生活を実現するための教育の充実」に基づき、研究の視点である「食育の推進及び心身の健康の保持増進や感染症等の予防と対策に関する指導の充実」を図るために、本校の実態や課題等に照らし合わせ取組を行った。</p> <p>学校経営計画の重点の一つに「キャリア教育を基盤とする学力・体力の向上」を位置づけ、飯南町と連携して行っている取組や生徒の提案を受けて決めた、『大切なことは「自立」と「貢献」、「健康」と「食生活」(あ)・挨拶(か)・感謝(き)・協同』という本校の合言葉に係る実践等について、その概要や成果と課題について提案する。</p>
	島根県 飯南町立赤来中学校 (令和6年度 出雲市立斐川西中学校) 校長 吉谷 不美男				

第 58 回中国・四国中学校長研究会広島大会 分科会提案者の学校規模・提案骨子等【No.2】

分科会	提案テーマ	学校規模 (R5.5.1現在)			提案者の校区や学校の特徴及び提案の骨子
	提案者	生徒数	学級数(特別支援学級:内数)	教職員数	
3	A 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実－東翔メソッド(原田メソッド)を核にした自己実現力・自己指導力育成の試み－	445	20 (7)	51	<p>本校がある鳥取市は、鳥取県東部に位置する中核市であり、義務教育学校を含めて 17校の中学校がある。小規模な町村が多い中、鳥取県においては一番学校数が多いため、校長会では定期的な自主研修会等を行い、各校の取組をはじめ、運営面におけるきめ細かな情報共有、連携を図っている。</p> <p>本校の学校教育目標は、「目標実現に向け、未来につながる学力と人間力を高め続ける生徒の育成」である。そのためには、生徒一人ひとりが未来の自分をイメージしながら、目標をもち充実した人生を主体的に切り拓いていく力を、意図的、継続的に高めていくことが重要となる。</p> <p>本研究は、大谷翔平選手の基礎を形づくったと言われている「原田メソッド」を、東中生徒の実態に合わせた「東翔メソッド」として再構築し、そのメソッドをもとに、生徒が「自分の未来を自分でつくる」ための自己実現力、「自分で気付いて自分で変える」ための自己指導力を、明確な目標設定のもと具体的な行動目標として実行し、獲得していく取組である。校長の明確なビジョンのもと、教職員とともに試行錯誤しながら行った新たな取組の具体及び成果と課題を提案する。</p>
	鳥取県 鳥取市立東中学校 校長 三橋 正文				
3	B 自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実－地域を愛し、仲間と協働し、自己実現を目指す生徒指導－	30	4 (1)	13	<p>仁淀川町は、高知県北部、愛媛県との県境に位置し、「仁淀ブルー」で有名な仁淀川が流れ、山に囲まれた自然豊かな地域である。仁淀川町は、現在町内全児童生徒数を合せても 200 名余りで、小学校3校、中学校 2校があり、全校へき地指定校である。仁淀川町校長会では、各校において地域との連携や保育から中学校までの校種間の連携を図ることにより、町の基本理念である「仁淀川町のひとづくり」を目指した取組を行っている。</p> <p>本校の生徒は、素直で真面目な生徒で、挨拶もよくでき、行事等にも意欲的に取り組むことができる。しかし、小規模学校特有の人間関係が固定化されやすく、仲間同士言わなくても分かる雰囲気もあり、自己表現が苦手な生徒が多い。また、幼少期から大人の支援が行き届くことにより、受身な生徒も多い。学校教育目標に掲げる「夢 希望 実現 笑顔～未来を切り拓き、次代を支える人材の育成～」を実現するためには、地域との連携や仲間との協働が重要である。地域を知り、地域の未来を考えていく中で、生徒同士の関りを仕組み、仲間との協働を通して、自己実現を目指していく生徒を育てるため、校長としてどのように教育活動を充実させていくのか、その取組の成果と課題を提案する。</p>
	高知県 仁淀川町立仁淀中学校 校長 三谷 裕之				
4	A 「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成－地域の願いを理解し、学校教育目標の実現に力を合わせて取り組む教職員集団の形成－	61	4 (1)	19	<p>本校は、瀬戸内海に三方を囲まれた四国最北端の半島に位置し、景勝屋島を西に望む、美しい自然に恵まれた環境にある。本校区の高松市庵治町は、人口減少及び少子化が顕著な地域であり、生徒数は 1983 年の 365 名に対し 2023 年は 61 名と、40 年間で 300 人以上減少している。地域の方々からは生徒数の減少による教育活動の停滞を憂う声がある一方で、生徒一人ひとりを地域の宝として大切に育て、地域の発展や課題解決に貢献できる人になってほしいという願いも強い。</p> <p>そこで、令和 5 年度から教育目標を、「自分自身や周囲の人々、そしてふるさとを大切に、夢や目標に向かって努力する生徒を育成する」とし、地域の関連団体や小学校等との連携をさらに深め、教育目標の具現化に向けて取り組んでいる。本実践では、令和の日本型学校教育を担う教師の一つの姿として、「地域の願いを理解し、学校教育目標の実現に力を合わせて取り組む教師」と捉えて、学校全体及び、校長として取り組んだ成果と課題を提案する。</p>
	香川県 高松市立庵治中学校 (令和6年度 高松市立牟礼中学校) 校長 北堀 宏				
4	B 学校と地域の連携・協働による「チーム学校」と「働き方改革」の実現－人が育ち、人が輝き、人がつながる協働文化をめざして－	182	8 (2)	16	<p>山口県南西部に位置する山陽小野田市は、干拓地に広がる田園地帯や森と湖に恵まれた公園など、海や緑に囲まれた自然豊かな地域である。人口は約 6 万人で、市内には小学校11校、中学校6校(内 2 校は小中一貫校)があり、山陽小野田市学校教育の基本方針「元気と笑顔あふれる学校の協創」を掲げ教育を推進している。</p> <p>現在の学校現場は、社会や経済の変化に伴い、子どもや家庭、地域社会も変容し、生徒指導や特別支援教育等に関わる課題が複雑化・多様化しており、学校や教員のみでの対応では、十分に解決できない事案も増えている。そのため、学校においては、学校経営ビジョンを地域と共有しつつ、様々な諸課題に対応する専門能力スタッフや、教育活動の支援等を行う地域関係者と連携・協働する体制を強化することが課題となっている。これからは、より一層多様な人材とのつながりが必要とされており、そのマネジメントを担うことが、校長の重要な役割と考える。</p> <p>本市校長会として、「チーム学校」を築くには、生徒に関わるすべての人が学校経営ビジョンの共有や具現化に携わることを通して当事者意識をもち、生徒が身に付ける力を意識した教育活動を仕組むことが重要であると考え、研究を進めた。その特色ある取組と実践を通しての成果と課題を提案する。</p>
	山口県 山陽小野田市立竜王中学校 校長 小野 雅弘				